2025 明治安田 J3 リーグ 第３節
3/1（土）14:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest
ギラヴァンツ北九州

順位表
2/23現在
基本　２試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）
注：＊印は消化試合が数字分少ない

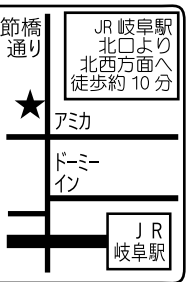
1	沼津	4p	+3	4	1	
2	讃岐	4p	+2	3	1	
3	群馬	4p	+2	2	0	
4	FC大阪	4p	+1	2	1	A△
1＊5	北九州	3p	+2	2	0	
6	宮崎	3p	+1	3	2	
1＊7	金沢	3p	+1	2	1	
1＊8	八戸	3p	+1	1	0	H●
9	相模原	3p	0	2	2	
10	栃木SC	3p	0	1	1	
11	栃木Ｃ	3p	−1	2	3	
12	長野	3p	−1	1	2	
1＊13	松本	1p	0	1	1	
14	鹿児島	1p	−1	2	3	
15	岐阜	1p	−1	1	2	--- ---
16	高知	1p	−1	0	1	
	琉球	1p	−1	0	1	
18	福島	1p	−2	3	5	
19	奈良	1p	−2	2	4	
20	鳥取	1p	−3	0	3	

次回HomeGame
第５節 vs.ツエーゲン金沢
3/16（日）19:00
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン
名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休　午後３時から営業
TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩３分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み串かつ 珍道中
14:30 ～ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
＜定休日：日曜・祝日＞
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	全21試合（J2：14試合、J3：6試合、天皇杯：1試合） 岐阜6勝 / 北九州13勝 / 2分け　Ｊリーグ岐阜ホーム戦：5勝1分5敗			
直近の対戦結果	2024/09/21 J3 - 29節＠ミクスタ　北九州 2-0 岐阜			
ここ ３試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/02/23　J3 - 02節＠長良川 岐阜 0-1 八戸	北九州	2025/02/22　J3 - 02節＠ミクスタ 北九州 2-0 長野
		2025/02/16　J3 - 01節＠花園 FC大阪 1-1 岐阜		2024/11/24　J3 - 38節＠ニッパツ YS横浜 2-3 北九州
		2024/11/24　J3 - 38節＠タピスタ 琉球 0-2 岐阜		2024/11/16　J3 - 37節＠ミクスタ 北九州 1-1 長野

●いよいよ始まった 2025 シーズンのＪ３リーグ。その開幕戦を 2/16（日）アウェイ FC 大阪戦で迎えた FC 岐阜は、ようやく後半 AT に追いついて、１－１のドロー。そして 2/23（日）第２節、ホーム開幕戦で迎えた相手は八戸。試合の序盤は八戸のペースだったが、徐々に岐阜が流れを握る。しかし、なかなか良い形でのシュートが撃てない。後半になると、選手交代をきっかけに岐阜の攻撃がさらに勢いを増すが、それでも得点が奪えない。すると、後半 AT に八戸が劇的なゴールを決め、０－１で試合終了。試合を優勢に進めながら無得点という、非常に悔しい形での敗戦となってしまった。
この２試合の結果、FC 岐阜の順位は 15 位。もちろん、まだ 38 試合中２試合を消化したばかりなので焦る必要はないが、２試合で１得点という攻撃面の課題は明白だ。大島新監督になって、まだ実戦経験を積み重ねていないことが大きな要因だろうが、今の段階からチームとして危機感を持つことも必要だ。今節は奇しくもホーム連戦。もっと積極的に前を向いたプレーを心がけ、貪欲にゴールを狙い続け、そして実際にゴールを奪い、今季初勝利を掴み取って欲しい。
さて、そのホーム連戦となる今節の対戦相手は、ギラヴァンツ北九州だ。昨季は増本浩平監督を招聘して "基礎固めの１年目" だったが、わずか勝点差２でプレーオフ圏に手が届かず、７位に終わった。今季は増本監督２年目体制で、主力選手の多くが残留して補強も順調で、"２年目の積み上げ"、そして飛躍を目指すチームだ。その北九州の第１節はアウェイで松本との対戦なのだが、開催日は 4/26（土）の予定のため、初戦は前節の 2/22（土）ホーム長野戦。試合はシュート 15 本を撃ち、長野のシュートはわずか１本に抑えるなど、終始主導権を握った内容で、２－０で快勝を収めている。したがって、今節は連勝を達成しようと、意気高く長良川に乗り込んでくるだろう。岐阜としては、その勢いに飲まれることなく、逆に積極的に主導権を握り、こちらのホーム戦であることを相手に痛感させるような試合展開を望みたい。
北九州とのリーグ戦の対戦成績は、６勝２分 12 敗・18 得点 27 失点。2022 年からのＪ３での対戦成績では、０勝１分５敗・３得点９失点と、岐阜は未勝利の状況だ。昨年の対戦も、5/6（祝）第 13 節・ホーム戦では、前半 AT に PK を献上してしまい、そのまま決勝点となって０－１で敗戦。9/21（土）第 29 節・アウェイ戦では、試合開始５分で CK で失点。その後に惜しいシーンは作るものの得点を奪えず、終盤の FK で PK を取られて２失点、そのまま０－２で敗戦。つまり、前節の八戸と同様に、岐阜は北九州にもシーズンダブルを食らっている。相性がよくない対戦相手が続くが、ホーム・長良川で悔しい敗戦を続ける訳にはいかない。チーム全員が奮起して、何としても勝利を掴み取ってほしい。
北九州で最も警戒すべき選手には、昨季 14 得点でチームの絶対的エースである＃10 永井龍を挙げる。前節は得点こそなかったが、今季も攻撃の中心選手だ。また、大卒２年目の＃18 渡邉颯太は前節でゴールを挙げている。若い選手だけに、勢いのあるプレーには注意が必要だ。一方の岐阜では、ストライカーの＃11 佐々木快にゴールが生まれれば、チームに勢いが出てくるだろう。ホーム戦での得点に期待したい。また、岐阜の大島監督は、北九州に在籍（2009 年はニューウェーブ北九州。2010 年～ 2012 年）して引退した選手だし、北九州の須藤右介コーチは、2014 年に岐阜に在籍した選手だ。スタッフ陣の "古巣対決" にも着目したい。
現時点では、まだチームとして課題が多く、手探りしている状態と言わざるを得ない今季の岐阜。そのチームや選手たちの背中を押し、一歩前に踏み出させるのは、ホーム・長良川での、僕ら岐阜サポーターの拍手や声援だろう。今節も、タオマフやゲーフラなどでスタジアムを緑に染めて、最後まで選手たちを鼓舞しよう。そして今節こそは、試合終了の笛と共に、選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、"HYPER CHANT" をこのホーム・長良川に響き渡らせよう。
（ささたく）

投稿募集！！ gidaidohri@gmail.com

ＦＣ岐阜大好き通信（岐大通）3/1号　編集発行：『岐大通』製作委員会　今号の製作担当：ささたく＆吉田鋳造

【第２節】岐阜 0-1 八戸

●前節は後半 AT に追い付けたけれど、今節は逆に決勝点を決められて痛恨の敗戦……。まああの時間帯に決め切る力が残ってた相手を褒めるしかない。
今回も石崎さんにしてやられたなぁ。さすが海千山千の策士ですな。いつの間にか八戸が苦手な相手の位置付けになりそうな感じである。
まだまだ課題は山積中。攻撃面での閉塞感は顕著。特に１トップの佐々木快がボールを受けた時の山田直輝など他選手の連携・連動した動きに物足りなさを感じる。まだ大島監督も最適解な選手の組み合わせを見い出せていない感じもする。
もう２節か、まだ２節か。捉え方は人それぞれ。ともかくこの２戦で浮かび上がってきた課題に取り組んでいくしかない。初勝利が待ち遠しいね。次はスカッとした試合が見たい。
（試合内容とは関係ない話ですが）左袖のスポンサーマーク貼り付け受付が 8 時スタートということで、開始前にどのくらい人が並ぶのか全く読めずに朝メシも食わず 7 時半頃に長良川来たのだけど、まだほとんど人もいなくて、ビックリ＆拍子抜け。まあ追加費用がかかるって事で敬遠した人も多かったのだろうか。
それなら配送時期が多少遅くなってもいいから、フルマーキングになった状態で配送という形にしても良かったんじゃないかなぁって個人的には思います。（岐阜の誇り）
●FC 岐阜、2/23 はヴァンラーレ八戸と戦いました。岐阜は、この日がホーム開幕戦。前節の FC 大阪戦は何とか引き分けて勝ち点を拾ったという格好になったので、ここで勝って勢いを付けたいと思っているのではないかと思います。一方の八戸は、文字通りの開幕戦。前節を 4/27 に延ばした格好（恐らく寒冷地だからというふうでしょう）になったので、この日が初戦になったのです。八戸のホーム開幕戦は第 4 節とのことなので、それまで勝ち続けてホームに凱旋したいと思っているのではないかと思います。
ところで、JR 岐阜駅に着いた時、信長公の像の前の広場ではイベントをやっており、そこではファティマ・レイニーの♪Love Is a Wonderful Thing（1994 年のヒットナンバー。日本では 1997 年にヒット）が流れていました。彼女は地元スウェーデンでサッカーをしていたほどのサッカー好き（らしい）。そして『愛』を今年の漢字にしている佐々木快選手の歓迎と吉兆だな……と思っておりました（ニヤニヤ）。
試合に関しては、前半は止まりかけのコマのような感じ。あっちフラフラこっちフラフラとどっちが勝つかわからない雰囲気になっていました。それだけ双方のチーム力は拮抗していたとも取れます。でも待ってくれ。向こうは初戦で、こちとら 2 戦目。向こうの方が不利でもおかしくないのに、拮抗まで追いつめられているのは、何ともはや……。
それでも後半に入ってから、徐々によくなってきました。八戸の動きが鈍ってきたのもあるんですけど、岐阜が少しずつ押せるようになってきた。ただそれでも、なかなか最終ラインを突破できない。突破できても決められない……。惜しいシュートを何本も見せられていた中、最終盤で大きな動きを見せました。八戸が猛攻を仕掛けてきて、右隅から上がったクロスに髙尾流星選手がオーバーヘッドで合わせたら、それが決まってしまい、そのまま 0-1 でゲームオーバー。まさかウチのチャントの♪Boys in Green の歌詞にある『駆けろ星（へ友よ）』が（流星とはいえ）髙尾選手の後押しになってしまうとは……（汗）。ちなみに髙尾選手を調べてみると、彼は 2024 年ガイナーレ鳥取満了後、トライアウトから這い上がってきた方で、プロ初得点は鳥取時代にウチで挙げた点らしい。
気になるところはあったとはいえ、見ていて悪い動きはあまり無い試合だったと思います。最後はオウイエ・ウイリアム選手を投入してまで点を決めようとした大島康明監督の執念が実らなかったことと最終ラインを突破できない突破力の欠如、そして決定力の欠如が敗因になったと思います。特に決定力に関しては、相手のキーパーもよかった点もあるのですけど、ふかしてしまった北龍磨選手のシュートや足がもつれてシュート体制が万全にならなかったウイリアム選手のシュートが物語っているのかな……。（言うのは酷なのはわかっているけど）この二点はデュエルだから決めてほしかった。
ただそれらは運の無さも起因しているのかもしれない。法曹界では、テミスという正義の女神をシンボルにしているそうです。たいていは、天秤と剣を持ち、顔には公正を保つために目隠しをしている姿で立っているとのこと（目隠しは、していないケースもあるらしい）。この日の試合は、あまり天秤が大揺れに揺れて止まってくれないから、しびれを切らせて目隠しを取ってしまって、試合の様子を見たら、たまたま最終盤のあのシーンを見てしまって、後押ししてしまった。そんな女神の気まぐれで決まってしまったんだな……なんて妄想が頭から離れません（苦笑）。
とはいえ、切り替えろと言われても、この敗戦はかなりキツい。昨年の AC 長野パルセイロ戦から続いた負け無しの記録も止まってしまい、勢いの面でも削がれてしまったと思います。そこに襲い掛かってくるのが、次の対戦相手になるギラヴァンツ北九州。増本浩平監督は、相手のスカウティングが達者な方なので、ウチをどう分析してくるか。戦力も充実しているので非常に厄介です。
この先を思うと、何とも言えない気分になってきた。3 連休で次の日休みだし、忘れたいから家に帰ったらヤケ酒だー！<そんなことをしても、たいていは忘れられないのよ（苦笑）。（アレックス）
●開幕戦では後半 AT に追いついて、何とかドローに持ち込んだ。さて、ホーム開幕戦のスタメンは、と……＃16 西谷亮に代わって＃23 萩野滉大をボランチに起用ですか。やはり大島監督も、＃16 西谷は前目でこそ活きる選手だって判断したってことですね。さて、試合は序盤から若干の荒れ模様。八戸のペースに巻き込まれかけた岐阜だけど、徐々にペースを取り戻してゆく。それはいいんだけれど……どうも、まだ攻撃が上手くかみ合っていない感が随所に出ている。特に、前の試合と同様、やはり僕には＃11 佐々木快が孤立しているように見える。 3 トップで左右がサイドに張っていてトップ下も 1 枚だから、どうしても前線の選手の距離感が遠くて、前線中央にスペースが生まれてしまう。だから、＃11 佐々木からこぼれたセカンドボールや、シュートの跳ね返りを相手に回収されてしまう場面が多かったように思う。また、この試合でも、少なくとも前半は、“綺麗に崩してシュート” の意識が強かったと思う。相手がゴール前ですぐ守備を固めるのだから、強引にでも素早く攻める意識や、あるいはミドルを撃って相手を釣り出す仕掛けが欲しかった。それと、昨季は J1 湘南だった＃15 山田直輝は、まだ J3 のプレーレベル（敵も味方も）に慣れていないように見えた。柏木陽介も同様に言っていた（苦笑）から、早く慣れて欲しいものです。ハーフタイムには雪が降ってきて、この寒い試合展開に追い打ちをかけた（溜息）。このまま行くのかと思いきや、後半すぐに大島監督は＃15 山田を下げて＃16 西谷を投入。へえ……キャプテンとはいえ、“聖域” 扱いはしないのが大島流なのかと、僕は好感を持ちました。それと、（実は昨季から少し気になってたんだけど）＃10 北龍磨って、実はベテラン MF がいると遠慮しちゃうタイプ？それともベンチの指示？＃15 山田が下がってキャプテンマークを巻いた途端、急にピッチを縦横無尽に走り出したように見えたのは、僕だけかしら（苦笑）。そしてすぐに、＃39 泉澤仁とキャプテンマークを巻いたばかりの＃10 北を下げて、＃ 7 中村仁郎と＃28 箱崎達也を投入、これも驚いた。活性化する岐阜の攻撃、波状攻撃を繰り返し、何度も惜しいシーンが生まれるようになったけれど、ゴールは生まれない。このまま終わってしまうのかと思ったら、その逆の結末が待っていた。攻撃に重心がシフトした岐阜の隙

を突いて、八戸が反撃。無理な体勢でのバイシクルが、クロスバーをかすめてゴールイン。まさかの失点…いや、『決定機を外した後には決定機を与えてしまう』という、昔ながらのサッカーの格言どおり、と言えるだろう。そして、試合終了。本当に悔しい敗戦だった。だけど、下を向いている暇はない。問題は、この敗戦の教訓をどう活かすか、だ。僕個人としては、後半のメンバーをスタメンで見たいと思うし、昨季終盤のように3バックの方が良いのではないかとも思う。だけど、その当時右WBだった＃19松本歩夢は戦線離脱中。シーズン序盤から課題が山積の岐阜。それでも、しっかりと前進してゆくしかない。（ささたく）
●長良川での開幕戦。土曜とは打って変わった天気だったのはよかったんだけど。ホーム長良川で、アノ雰囲気の中での、ほぼ、「サヨナラ負け」という結果はいささかキツい。決められる前にはポスト直撃もあっただけに、ね。どっちに転んでもおかしくない内容だったから、なんとか、こちら側に転がって欲しかったよ。その差は、思うに「大阪や八戸にはこれまでのスタイルや積み上げがあって、ウチにはなかった。」というコトじゃないかな？確固たるものがあるチームと出来上がってないのが丸わかりなチーム……というコトかしらん？でも、内容としては花園よりはよかったと思う。先週は使い倒したササカイを昨日は交代させたコトで『聖域』はないみたいというコトがわかったし。ジロウや、この試合がデビュー戦だったウィリーの惜しいシュートもあったし、それなりの収穫はあったと思いたい。あとはナオキと泉澤の起用法、かなぁ？実際、彼らが交代してからの方がいい流れになったように思うんだけど。あ、それから、箱崎クン。今後の彼を注視していきたいです！
そういや、長良川の開幕戦で負けたの久しぶりじゃない？と思って調べたら2018以来だった。出足としては正直芳しくない状況だけど、あとはアゲていくだけ……となるやもしれん。なってほしい（苦笑）。（ぐん、）
●岐阜はとにかく、FC大阪のプレス＆ラッシュ・スタイルも苦手だけど、「出来ないことは（選手に）やらせない」堅実な石﨑スタイルも苦手。岐阜の監督や選手がどれだけ変わっても、不思議とこれは変わらない。もしかしたら、小松社長の言う「クラブのフィロソフィー」なのだろうか（苦笑）。
もうね、これは【藤岡ロス】と言い切ってしまってＯＫ……というような岐阜の攻撃の停滞ぶり。監督は西谷のボランチは機能しないというのは理解したようで、スタメンがリョーマとコーダイ。でも、ナオキのトップ下が機能しないところまでは手がまわらなかったのかな。ササカイはとにかく「降りてこない（これは監督も囲み取材で『彼はゴールしか見ていない』と認めている）」のでトップ（ササカイ）と２列目の間に溝が出来て、ここを埋める選手がいない。だからササカイは孤立する。もしかしたら、１トップって『ただ１人のＦＷを孤立させる』戦術だったのかしら。昨季ラストの好調時は、その溝を藤岡が降りてきて埋めていたんだよな。
泉澤もまだコンディションが上がっていないのか、かつてのキレキレぶりは見せてくれない。後半になってナオキ→西谷、泉澤→仁郎（ダイゴが泉澤のところへ）でようやく「活性化はした」けど、とにかく石﨑スタイルは堅実なので決定機までは作れず、最後は高尾のスーパーゴールで仕留められてしまった。
まだ、たったの２試合だ。「２試合で勝ち点１の得点１」をどうこうは言わない。どうこう言いたいのは「今年も時間のかかる方法でチームを作ろうとしているのではないか？」という危惧だ。いいサッカーが出来るチームに仕上がった時は「昇格争いは遥か彼方、岐阜とは関係ないところで進んでいた」となりかねない。
必要なのは、いいサッカーより勝てるサッカー。いいサッカーを作っても、シーズン終了時に結果が出なければ選手は抜かれてしまう。そしてまた作り直し。でも、小松社長は「だが俺の考えは違った」と仰るかもしれない。「そんな短期目線でどうする、勝てるサッカーよりいいサッカー。いいサッカーが出来れば、必ず勝てる。それがこのクラブのフィロソフィーだ（キリッ）」……とか。
たしかに、サッカーのリーグ戦は自転車トラック競技の「ポイントレース」（何十周とするレースの中で、数レースごとに「その時点での１位は５点、２位は３点……」と選手にポイントを与え、周回終了後の合計ポイントを競う）と違い、シーズン終了時の順位がすべて、途中の順位は無関係。チーム戦術の完成に時間がかかってリーグ前半19戦の勝ち点が16で「昇格争いは遥か彼方」だったとしても、後半戦を「完成した『必ず勝てる、いいサッカー』で19戦全勝」すれば総勝ち点は73で昨季の今治と同じになる。もしかしたら、そういう設計図なのかも。でも、『必ず勝てる、いいサッカー』なんて、どこにもない。村上春樹の表現を借りれば「誠実な呼吸や誠実な小便がどこにもない」（『羊をめぐる冒険』）ように、だ。もしあったら、バルセロナやリバプールが（レアル・マドリーやマン・シティでもいいよ）がやってるよね。（吉田鋳造）